

伝言板

No.42(R 6.11)



NPO 法人 北海道みなとの文化振興機構

もくじ

助成活動	1	令和6年度稚内港大規模地震・津波総合防災	
みなとサポート事業	4	訓練	12
第19回 みなと座談会	7	着ぐるみ貸付事業	
メールアドレス登録のお願い	10	「根室港 海とみなとパネル展」	13
ザ・シンポジウムみなと		令和6年度 事務局・支部体制	14
in 紋別「みなとパネル展」	11		

助成活動

道内のみなとまちの活性化を目指し、企画・実施されるイベントなど、みなとまちで実施される様々な事業を支援し、さらなる「みなとまちの活性化」に寄与することを目的に「助成事業」を平成20年から実施しています。

17回目となる今年度においても、各開発建設部の「みなとの相談窓口」を通して推薦していただくと共に、当機構のホームページおよび広報誌「伝言板」で募集要領を掲載し、令和6年4月2日から5月7日にかけて募集しました。

評価審査委員会

今年度は一般の部9団体から9件、特定の部3団体から3件の申請がありました。

採択事業を決定するため5月21日(火)午後から(一社)寒地港湾空港技術研究センター会議室にて、「評価審査委員会」を開催しました。

委員会は、学識経験者2名、当機構理事長及び当

機構理事で構成され、各事業の評価審査を行いました。

審査の結果、地域住民との連携、過去の開催実績などを考慮し、申請のありました一般の部8件と特定の部3件の事業を採択し5万円から15万円を助成しました。



採択事業

(一般の部)

	活 動 名 団 体 名	活 動 目 的 活 動 内 容	開 催 日 開 催 場 所
①	・海の日コンサート ・みなとまちづくり 女性ネットワーク室蘭	・室蘭港への理解と音楽を通して世界につながる海を知り、ソフト事業につながる発想を育てる。	・7月15日(月) 海の日 ・室蘭文化センター ホール
②	・漁港区の美化活動 みなとコンサート ・女性みなと街づくり苦小牧	・「ホッキまつり」や観光客など、人の往来に彩を添える季節の花を植え、美化活動を推進する。 ・音楽を通して、みなとへの理解と施設の魅力をPRする。	・6月～8月 ・苫小牧港西港区漁港区 ・12月・3月 ・西港フェリーターミナル
③	・第20回 wakkanai みなとコンサート ・稚内のみなとを考える女性ネットワーク	・市民に稚内港のことを知ってもらう機会を創出することで港に興味を持ってもらい、将来の魅力ある稚内のみなとづくりに貢献すること。	・7月13日(土) ・稚内港内 (北防波堤ドーム)
④	・紋別港防波堤 イルミネーション事業 ・みなと・まちづくり女性 ネットワークオホーツク	・オホーツクタワーに接続する親水防波堤などにイルミネーションを設置し、冬季の臨港地区内の景観を向上することで、観光客の誘客及び周辺施設の利用促進を図る。	・令和7年2月 ・紋別市海洋交流館横 ・紋別港第3防波堤
⑤	・室蘭港中央埠頭清掃作業 ・みなとオアシス室蘭 運営協議会	・中央ふ頭の清掃活動を行うことで、植樹の環境を整備するとともに、更なる景観が向上及び市民の憩いの場として親しまれる港を目指す。	・6月1日～6月30日 ・室蘭港中央ふ頭
⑥	・釧路みなとオアシス歓迎事業 ・釧路みなとオアシス協議会	・クルーズ客船が寄港する耐震・旅客船ターミナルに設置した記念撮影パネルについて、大変好評を得ているため、新たにもう一つパネルを作製し、さらなる岸壁の賑わいづくりやみなとオアシスのPRにつなげる。	・クルーズ船寄港時 ・釧路東港区耐震 旅客船ターミナル
⑦	・みなとパッチワーク アート事業 ・留萌みなとまちづくり 女性ネットワーク	・留萌港をテーマとしたアート作品を制作いただくことで、港への興味、関心を高め、未来の留萌港を考える機会とする。 ・アート作品を繋ぎ合わせ一つの作品として完成させ、未知の創造力を養う。	・作品募集(6月中旬～ 8月下旬)、作品展示 9月中旬 ・みなとオアシス船場 公園、市内金融機関、 公共施設
⑧	・Port Clean in 留萌 ・みなとオアシスるもい 運営協議会	・海の日近辺に合わせて、留萌港内の清掃及び漂着ごみのごみ拾いを実施し、留萌港及び周辺環境美化を図り、市民に愛される港とする。	・令和6年7月中旬 ・留萌港

(特定の部)

	活 動 名 団 体 名	活 動 目 的 活 動 内 容	開 催 日 開 催 場 所
①	<ul style="list-style-type: none">・むろらん港鉄人舟漕ぎ大会・むろらん港鉄人舟漕ぎ大会 実行委員会	<ul style="list-style-type: none">・室蘭港内を会場とした市民参加の舟漕ぎ大会を通じて、港に対する市民の理解を深め、多くの人に交流の場を提供することで、港を核とした地域活性化に寄与する。	<ul style="list-style-type: none">・9月8日(日)・室蘭市祝津町 祝津親水緑地
②	<ul style="list-style-type: none">・みなと南極まつり稚内副港 ボートレース 2024・稚内副港ボートレース 実行委員会	<ul style="list-style-type: none">・稚内港を市民と連携した交流拠点機能を拡充するためボート競技のイベントを開催し、継続的に開催することによりにぎわい交流拠点の確立を目指す。	<ul style="list-style-type: none">・8月4日(日)・稚内港第一副港
③	<ul style="list-style-type: none">・釧路港舟漕ぎ大会・釧路港舟漕ぎ大会実行委員会	<ul style="list-style-type: none">・釧路港の利用促進に携わる有志が、海上を舞台に競うことで感動できる舟漕ぎ大会を開催し、みなとまちづくり活動を行っている各種団体との連携を図りながら、活気ある釧路の港まちづくりを目指す。	<ul style="list-style-type: none">・8月3日(土)・釧路川 幣舞橋上流



ぽーとん



べいくりん

みなとサポート事業

札幌支部

◎石狩湾新港「みなと見学会」

開催日：令和6年7月4日(木)～5日(金)

開催場所：石狩湾新港港内

開催概要：小樽開発建設部小樽港湾事務所は、出前講座の一環として石狩市内4小学校の児童120名(3年生、4年生)を対象に「石狩湾新港 みなと見学会」を実施しました。パネルを用いた座学でLNGタンクや各ふ頭の使われ方などみなとの役割を勉強したほか、港湾業務艇「みずなぎ」で各ふ頭の港湾施設や係留船舶を見学し、みなとへの知識を広げてもらいました。

サポーター：1日4名で延べ8名が支援

支援内容：○救命胴衣の手渡しと着脱補助 ○栈橋の設置撤去補助 ○乗下船の誘導補助 ○当機構記念グッズの配布



小樽港湾事務所 提供



小樽港湾事務所 提供

◎小樽港「みなと見学会」

開催日：令和6年7月14日(日)

開催場所：小樽港港内

開催概要：小樽開発建設部小樽港湾事務所は、「マリンフェスタ in 小樽」に参加し、一般市民100名(先着順、20名/便×5便)を対象に「小樽港 みなと見学会」を実施しました。当日は、港湾業務艇「みずなぎ」から各ふ頭の港湾施設、係留船舶や北防波堤を見学し、小樽開発建設部が行っている港湾事業への理解を深めてもらいました。

サポーター：4名が支援

支援内容：○救命胴衣の手渡しと着脱補助 ○乗下船の誘導補助



小樽港湾事務所 提供



小樽港湾事務所 提供

◎石狩湾新港「みなと見学会」

開催日：令和6年8月10日(土)

開催場所：石狩湾新港港内

開催概要：小樽開発建設部小樽港湾事務所は、「石狩湾新港 30 周年記念フェスタ」実行委員会の依頼により、一般市民 80 名(先着順、20 名/便×4 便)を対象に「石狩湾新港 みなと見学会」を実施しました。

港湾業務艇「みずなぎ」で中央ふ頭から樽川ふ頭までの港湾施設、荷役機械や係留船舶を見学し、小樽開発建設部が行っている港湾事業への理解を深めてもらいました。

サポーター：4 名が支援

支援内容：○救命胴衣の手渡しと着脱補助 ○栈橋の設置撤去補助 ○乗下船の誘導補助



小樽港湾事務所 提供



小樽港湾事務所 提供

函館支部

◎函館港「みなとパネル展」

開催日：令和6年7月13日(土)10時～16時
7月14日(日)10時～15時

開催場所：函館市国際水産・海洋総合研究センター 2階

開催概要：「はこだてマリンフェスティバル」に協賛して市民生活と函館港の関りについて広く理解していただくために、函館開発建設部函館港湾事務所が、弁天地区整備に関するパネル 30 枚他を展示。

2 日間でのパネル展来場者は 895 名(13 日 469 名、14 日 426 名)。

サポーター：13 日(土) 1 名、14 日(日) 2 名が支援

支援内容：○来場者の誘導 ○パネルの説明
○当機構記念グッズの配布

【支援状況】



苫小牧支部

◎室蘭港「海の日パネル展」

開催日：令和6年7月15日(月)

開催場所：道の駅「みたら室蘭」2階

開催概要：市民生活と室蘭港の関りについて広く理解していただくために、室蘭開発建設部室蘭港湾事務所が、室蘭港の沿革や取り扱い貨物量の推移、大型クルーズ船の利用、広域防災フロートについてのパネル7枚を、また室蘭開発建設部地域連携課が第9期北海道総合開発

計画について4枚を展示。

北海道みなとの文化振興機構からも、洋上風力発電導入の取り組み、港湾における水素エネルギーの活用のほか、当機構の紹介パネルなど4枚を展示。当日の来場者は10時から15時30分までで昨年を大きく上回る約230名。

サポーター：1日2名が支援

支援内容：○来場者の誘導 ○パネルの説明
○室蘭港海の日会および当機構記念グッズの配布



第19回 みなと座談会

当機構は平成16年度から、みなとまちの地域づくりについて考える「みなと座談会」を女性の視点から考え活動している「北海道みなとまちづくり女性ネットワーク」と共催し、各地域で意見交換会を開催しています。

1回目の函館市から始まり、これまでに釧路、室蘭、稚内、広尾、留萌、苫小牧、函館、室蘭、紋別、釧路、札幌、稚内、室蘭、留萌、苫小牧、一昨年度は新型コロナウイルスによる3年の中止期間を経て札幌、昨年度は苫小牧で開催してきました。今年度は、3度目となる函館市において、令和6年9月17日(火)に、午後2時からのフェリー見学会、午後2時45分からの北海道みなとまちづくり女性ネットワーク総会(活動報告)、前国土交通省北陸地方整備局長の遠藤仁彦様の特別講演「みなとまちづくり女性ネットワーク」に続き、午後4時から津軽海峡フェリーターミナルVIP会議室に於いて開催しました。

座談会テーマ

今年度は、「みんなと楽しく魅力あるみなとまちづくり」をテーマに、全道各地で活躍されている女性ネットワークの方々と、北海道開発局や函館市の関係者を交え、昨年度のテーマであった「女性ネットワークの仲間づくりや情報発信について」のフォローアップや「イベント情報の共有と情報交換」などについて意見交換を行いました。

座談会参加者

司会

NPO 法人北海道みなとの文化振興機構
理事長 眞田 仁

北海道みなとまちづくり女性ネットワーク

北海道みなとまちづくり女性ネットワーク
会長 大西 育子

女性みなと街づくり苫小牧 代表 大西 育子
事務局長 山田みえこ
みなとまちづくり女性ネットワーク室蘭
代表 立野 了子
みなとまちづくり女性ネットワーク函館
代表 折谷久美子
釧路港みなとオアシス協議会おもてなし部会
部会長 金子ゆかり
留萌みなとまちづくり女性ネットワーク
代表 菅原千鶴子
稚内のみなとを考える女性ネットワーク
代表 岩本 明子
みなとまちづくり女性ネットワーク・オホーツク
代表 竹内 珠己
NPO 法人マリネットネットワーク
理事長 片石 温美



行政機関等

北海道開発局 港湾空港部	部長	佐々木 純
港湾計画課	課長	櫻井 義夫
	港湾企画官	柴田 裕基
	課員	米光 保貴
函館開発建設部	次長	佐々木洋介
築港課	課長	工藤 博文
函館港湾事務所	所長	三岡 照之
函館市 港湾空港部	次長	榎本 剛
港湾課	課長	廣田 洋司
特別講演		
前国土交通省北陸地方整備局長	遠藤 仁彦	

事務局

NPO 法人北海道みなとの文化振興機構

みなとの文化研究室	室長	梅沢 信敏
	事務局長	上田 裕章

座談会概要

始めに、主催者を代表して当機構眞田理事長から、「今日の座談会の議題は2つに分かれていて、最初が、昨年の第18回座談会において継続議論となったもののフォローアップ。もう一つは、令和元年～5年までの活動報告を基に議論したいと思っています。」とのご挨拶がありました。

座談会は眞田理事長の司会により、まず、第17回と第18回のテーマが「女性ネットワークの仲間づくりや情報発信について」ということで、情報発信についてずいぶん議論しました。その際、女性ネットワークの皆さんがホームページをほとんど持っておらず、情報発信の機会も少ないことが明らかとなりました。そのため、我々「みなとの文化振興機構」のホームページを活用してはどうか。一つは、皆さんからいろんな情報をもって全道規模のイベントカレンダーを作成し、それを載せる媒体としての活用。それから、カレンダーは予定だけでも、皆さんの活動報告を載せるプラットフォームの役割を担えたら良いのではとの提案がありました。

イベント予定の発信については、地元の新聞記者への取材依頼やフェイスブックを活用しているとの報告がありましたが、必ずしも十分でないことが確

認されました。イベントカレンダーの掲載については、全道規模のイベント予定を見ることができれば地域の人達にも良いとの認識で一致しました。しかし、イベントカレンダーについては昨年の座談会においても提案されていましたが、掲載するための情報提供が出来ていないのが現状であり、イベントカレンダーの情報提供に当たって、なにか決まったフォーマットがあると取り組みやすいとの意見がありました。

活動報告の掲載については、まず、眞田理事長より、活動報告には市民が参加している写真を掲載したいが、人物が写った写真を載せる場合には必ず本人の許可・承諾が必要であるとの課題が示されました。この課題に対し、女性ネットワークの代表自らが参加者の確認を取って承諾を得た写真を開建ホームページに掲載してもらっているとの事例の報告もありましたが、事後に写った一人一人に確認を取るとは事実上難しいため、前もって「この行事の中で撮った写真はホームページに使用します。」と最初からお断りするのが大事ではないかとの意見がありました。

これらの意見を受け、イベントカレンダー及び活動報告のホームページ掲載に向け、情報提供のフォーマットを作成し、活動報告において顔写真を掲載する際には承諾が必要であることから、フォーマットには「提供する写真に顔写真がある場合には承諾を取ってください。」等の注意事項を付して情報提供を依頼する方向で事務局内において検討し、改めて女性ネットワークの皆さんにお知らせすることとなりました。

2つ目として、予め配布した各地域の「令和元年～5年までの活動報告一覧表」を基に意見交換を行いました。最初に、眞田理事長よりこの一覧表の作成理由として、一つは、「私の地域ではこれをやらないからこれやろう」ではなく、「次にこんなこともやってみたいな」と思ったら実施している地域の港を訪ね、それを予習・勉強することができる。もう一つは、同じような活動を行う上の課題や悩みがあれば、それを皆さんで共有するのも良いと思い作成したとの説明がありました。

共通する課題の例として、まず、多くの地域で取り組んでいる「花植・植樹」の活動費用が挙げられました。函館駅前広場の花壇は函館市の事業として行っており、花代などの費用はかからないが、ボランティアで行っている維持管理にすごく手間暇がかかっている。稚内港北防波堤ドームの花壇は今年は補助金でスコップ等の道具を購入したが、なるべくお金をかけないように増えた株を株分けして植えている。紋別の「花いっぱい運動」は港の振興協議会や市役所のほか、自分たちも資金を負担して何とか頑張っているとの報告がありました。

次に、最近、取り組む地域が増えてきた「みなとピアノ」の現状や課題に関して、各地域から以下の報告がありました。

- ・第1号である室蘭は、学校の統廃合で使用されなくなったグランドピアノを道の駅「みたら室蘭」に置いています。練習など色々な使い方がされており、メンテナンスは大変だが責任があるので対応しています。設置しただけで市民によく活用されていて、それが今後どう生かされていくのかということも大事であります。
- ・紋別は、オホーツクタワー（氷海展望塔）の喫茶ルームに置いており、タワーの管理会社が演奏会を開いています。喫茶室の方が見ているため管理は出来ています。
- ・苫小牧は、不要となったピアノを引き取り、寒地港湾空港技術研究センターの補助金で修理した後、西港フェリーターミナルに置いています。現在、東港にも設置する準備を進めています。西港

はインフォメーションの前に置いているため事故もなく、自由にピアノが弾けるので市内からも子供たちが喜んで弾きにきています。

- ・留萌には「みなとピアノ」はないが、先週、道の駅で生バンドの共演があり、ピアノがあったらもっと良かったろうと思いました。家に不要のグランドピアノがあるが、運搬等の費用が心配なところです。

これら各地域からの報告を受け、真田理事長より、現在、「みなとピアノ」は全道で苫小牧の東港を含め4台しか計画がないのでこれから増えてほしい。ピアノの調達や設置場所、維持管理等の問題の内、当然必要となる調律については、その費用を抑えるため、例えば年に1度とか5年に1度とか調律師に全道を周ってもらってはどうか。また、「みなとピアノ」の周知として、「みなとの文化振興機構」のホームページにイベントカレンダーを載せるのと同時に、「みなとピアノ」の位置図やピアノを弾く時の注意事項を載せた情報を発信してはどうかとの提案がありました。

これに対し、調律の費用はピアノを維持する上で大きな負担であり、それが安くなるのであればありがたい。ストリートピアノを弾くために全国を回っている人もいるので、情報を提供することでピアノを弾く機会を与えることも大事であります。また、「みなとピアノ」の設置に関し、今後、函館や小樽のようにたくさんの船が入る港において行政側が率先して取り組んでもらえれば我々の励みにもなる等の意見がありました。



その他の議題として、「海の日」の取り組みに関する意見交換がなされました。「海の日コンサート」は必ず「海の日」に海のそばで行うことに決めている地域がある一方、「海の日」は学校の行事や港湾事務所の「みなと見学会」などが先行するため、その合間に出来ることをやっている。また、フェリーの有無など港によって状況が異なることから、「女性ネットワーク」として「海の日」に統一して何かやることは難しいが、情報交換しながら各地域の港の特性を生かした活動を行うべきとの意見がありました。

最後に、眞田理事長より、「昨年からの宿題であった、情報発信の一つのプラットフォームとして『みなとの文化振興機構』のホームページを活用することについて、事務局内で検討し、改めて女性ネットワークの皆さんにご報告をしたいと思います。少しずつ充実していきたいと思いますので、データ提供についてもご協力をお願いします。」と締めくくり、みなと座談会を終了しました。

メールアドレス登録のお願い

いつも当機構の活動にご理解とご賛同を賜り、誠にありがとうございます。

さて、当機構では Web サイトの更新情報などをメールニュースで発信しています。

これにより、会員の皆様の活動をより活性化することを目指すとともに、情報発信の迅速化を図りたいと思います。

本ページの QR コードまたは Web サイトのトップページより、メールアドレスの登録フォームにアクセスしていただき、お名前とメールアドレスをご記入ください。

よろしくお願い申し上げます。



ザ・シンポジウムみなと in 紋別「みなとパネル展」

NPO 法人北海道みなとの文化振興機構は、一般市民に「みなとの役割、暮らしとの関わり合い」を広く理解していただくため、毎年「ザ・シンポジウムみなと（ザ・シンポジウムみなと実行委員会主催）」の開催に協賛して、実行委員会の支援を得て「みなとパネル展」を企画、開催しています。

令和6年度の「ザ・シンポジウムみなと in 紋別」は、市制施行70年を迎える紋別市において、オホーツク海特有の流水を活かし、クリオネプロムナードを拠点としたオホーツクタワー等を整備し、流水研究・観光拠点として、オホーツク地域の交流拠点として発展してきた紋別港について、「紋別港の将来を考える～『みなと』を核とした交流人口の増加～」をテーマに、令和6年9月26日(木)に、紋別市文化会館で開催され、151名の参加がありました。

みなとパネル展は、シンポジウム会場の入口ホールにおいて、紋別港のトピックス、取扱貨物量、立地企業、輸出促進や観光振興の取組のパネル展示に加え、みなとオアシスもんべつや、NPO 活動状況の紹介と設立までの経緯などのパネルを展示し、シンポジウムに参加された方にご覧いただきました。

今回のパネル展開催にあたり、北海道開発局港湾空港部、網走開発建設部、紋別港湾事務所の皆様のご理解とご協力に厚くお礼申し上げます。

ザ・シンポジウム
みなと in 紋別

紋別港の将来を考える
～「みなと」を核とした交流人口の増加～

令和6年9月26日(木) 15:00-17:30

会場：紋別市文化会館
紋別市幸町3丁目1番8号
アクセス <https://mombetsu.jp/education/?content=284>

講演者：紋別港から発信する地域交流増加について 武者 加苗 氏

パネルディスカッション：紋別港を核とした研究と観光による交流人口増加の取組について

コーディネーター：渡辺 陽子 氏

実行委員会事務局：011-747-3688 <http://gkai.com/entry.html>

シンポジウムのポスター



パネル展の様子

令和6年度稚内港大規模地震・津波総合防災訓練

北海道開発局、北海道開発局稚内開発建設部と港湾管理者である稚内市主催の「令和6年度 稚内港大規模地震・津波総合防災訓練」が8月31日(土)14時より稚内港末広埠頭東岸壁で開催されました。

北海道北西沖を震源とする大規模地震及びこれに伴う津波による災害によって、稚内港の港湾施設に被害が発生した場合の港湾機能の早期回復に備え、第1管区海上保安本部函館航空基地、稚内海上保安部、陸上自衛隊第3即応機動連隊、北海道旭川方面稚内警察署、稚内消防署、一般社団法人 日本埋立浚渫協会 北海道支部、北海道港湾空港建設協会、一般社団法人 日本潜水協会、一般社団法人 海洋調査協会、一般社団法人 港湾空港技術コンサルタント協会、北海道ポートエンジニアリング協会、稚内市建友会、稚内市BCP協議会、稚内のみなとを考える女性ネットワーク、稚内港湾事務所工事安全連絡協議会及び当機構(防災エキスパート)の18団体が参加し、関係機関の連携強化及び災害意識の向上を目的とし、実動訓練を行いました。

午前には雨や風が激しかったため、一部の訓練内容は取りやめとなりましたが、開会式までには雨は上がり、時折日差しのさすなか実施されました。開会式での林稚内開発建設部長の訓練開始宣言により開始され、工藤稚内市長の挨拶、来賓の武部新衆議院議員、船橋利実参議院議員の祝辞のあと、避難訓練、広域海上点検訓練(ヘリコプターの飛行による点検は中止し過去の訓練のビデオを上映)、油拡散訓練、被災状況調査訓練、港湾巡視訓練、航路啓開訓練、漂流者捜索・救助訓練、緊急支援物資・被災者輸送訓練が行われました。

当機構の防災エキスパートは、4名が被災状況調査訓練に参加し、地震で被災した岸壁の被災延長、沈下状況を測定し、開発局職員へ結果を報告しました。

閉会式では、北海道開発局佐々木港湾空港部長の講評と林稚内開発建設部長の訓練終了宣言によりすべての訓練を滞りなく終えました。



北海道開発局 提供

着ぐるみ貸付事業「根室港 海とみなとパネル展」

釧路開発建設部根室港湾事務所では、令和6年7月14日(日)に「海の月間」行事の一環として根室市で開催される「海のフェスティバル」(主催：根室港海の日の会)において、「海とみなとパネル展」を展示しました。パネル展では、根室港の役割・事業紹介・利用風景等を紹介しました。パネル展以外にもヨーヨー釣り、スーパーボールすくい、風船の無料配布のほか、北海道における港の公式マスコット

「ぼーとん」「べーくりん」が参加し、多くの子ども達から絶え間ないハグや写真撮影の要求があり、PR活動の予定時間を過ぎてもなかなか帰られないほど大変好評でした。

また、当日は「第65回ねむろ港まつり」が開催され、舟こぎレースや屋台出店、ステージイベントなどが行われ多くの家族連れで大いに賑わいました。





令和6年度 事務局・支部体制

令和6年度の事務局体制は、8月までに2名の事務局次長が退任して4名が新任となり15名で活動しています。また、支部は、札幌支部、函館支部、苫小牧支部及び釧路支部での役員の変更なく活動を続けております。

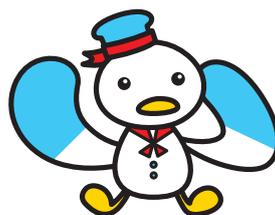
引き続き活力あるみなとまちづくりを会員の皆様と共に進めてまいりますので、ご支援、ご協力をお願いいたします。

事務局

役職	氏名	役職	氏名
事務局長	上田 裕章	事務局次長	牧田 佳巳
事務局次長	高木 哲夫	事務局次長	栗林 則夫
事務局次長	宮部 秀一	事務局次長	井元 忠博
事務局次長	渥美 洋一	事務局次長	鈴木 泰弘
事務局次長	鈴木 一行	事務局次長	増田 亨
事務局次長	秋浜 政弘	事務局次長	斉藤 敦志
事務局次長	石川 洋一	事務局次長	松尾 義雄
事務局次長	飯田 誠		

支部

役職	氏名	役職	氏名
札幌支部長	千葉 不二夫	苫小牧支部長	秋葉 洋一
札幌支部次長	今林 弘	苫小牧支部次長	竹腰 隆志
函館支部長	川村 求	釧路支部長	佐藤 浩彰
函館支部次長	中村 篤	釧路支部次長	伊藤 文彦



ぼーとん



べいくりん

事務局連絡方法

当機構事務局への連絡は、下記のいずれかをお願いします。

Tel : 011-727-3710 Fax : 011-727-3710

E-mail : mail@minatobunka-npo.info

(メールアドレスが新しくなりました)

なお、事務局は、常駐体制でないことから、ご返事を差し上げるまで一週間程お時間をいただくこともございますので、何卒ご了承をお願いします。

また、当機構の活動状況は、ホームページでご覧になることができます。

<https://www.minatobunka-npo.info/>

特定非営利活動法人

北海道みなとの文化振興機構

〒001-0011 札幌市北区北11条西2丁目2番17号
セントラル札幌北ビル5F